

意欲を高めるための授業づくり

～AAR サイクルの視点での実践から「自分から一歩踏み出す姿」を引き出すために～

高等部
木工芸班の実践

1【背景】

昨年度、「振り返りファイル」の活用を通じて多様な「一歩踏み出す姿」を引き出すことができたが、意欲の高まりについては、より工夫が必要という課題が残った。



期待する姿に求める資質・能力
 ○工程や手順の理解力・判断力（知識・技能）
 ○コミュニケーション力（思考力・判断力・表現力）
 ○達成感（学びに向かう力・人間性等）

2【目的】

一人ひとりの活動の**価値や意義**を深め、**学習意欲**を高める。

3【方法】

～授業づくりで重視したポイント～

◎**視覚支援の充実** 4【実践】参照

◎**評価の工夫** 多様な視点で肯定的な評価。

◎**振り返りの質の向上** 「ファイル活用」・振り返り支援の工夫(昨年度から継続)



〈観点別評価の一例〉
知 素材や道具の特性の理解
技 製品の作り方や出来栄
思 学んだ内容の振り返りや自己評価
判 相談や適切な表現
表 成功した時の喜びや達成感の共感
主 ・第三者アンケートでの振り返り
 ・製品作りや販売会に臨む表情や態度
 ・仲間意識や気遣い、協働性...などの肯定的な評価を積極的に行う。

〈木工芸班の実践イメージ〉

【振り返り】 Reflection
 どうだった？
 ・結果の書き出し
 ・課題の抽出
 ・自己評価
 etc.

【見通し】 Anticipation
 どうなるかな？
 ・活動目標
 ・課題の予測
 ・材料の準備
 ・時間配分

【振り返りファイル】
 ・振り返りの実施
 ・振り返りに応じる評価

【行動】 Action
 立ち止まって自分なりに確認
 できた！できた！
 ・得意な表情
 ・仲間への感謝
 ・達成感

個々の生徒の能力や課題の見極め

R4 発表ポスターより抜粋

4【実践】

～分かる・できるを増やし、意欲を高める工夫～

ねらい	実践内容	実践後
主体的に考える	<p>〈ホワイトボードの工程表の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業ができる否かを記号で示す。 ○生徒自身が活動を定める。 <p>○は作業【可】／は【不可】</p>	<p>〈活動を自分で決めることができた〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分で活動を選択して進められることで、製品づくりの動機や意欲が高まった。
自分から取り組む	<p>〈活動表や道具準備の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもてるように活動を示す。 ○道具の準備に取り組めるようにカゴを用意。 <p>《活動ボード》</p> <p>活動を自分で確認できた</p> <p>《準備カゴ》</p> <p>必要な道具や材料を準備することができた</p>	<p>〈取り組み方を理解して進められた〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○製品に応じて、自分から道具の準備に取り組むことが増えてきた。
目標をもつ	<p>〈在庫管理の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT活用で生徒自身が入力する在庫管理表。 ○定期的に目標数と出来高を生徒自身が記録。 ○達成率の視覚化。 <p>《在庫管理表》</p> <p>〇〇したい！！ △△するぞ！！</p>	<p>〈自己評価をしやすくなった〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目標数を意識できたため、生産数を考えながら取り組むことができた。 ○達成率を共有できるため、仲間や教師から評価される機会が増え、意欲が増した。

5【結果】

～「一歩踏み出した」生徒たちの声～

- ・工程表や「ファイル」を自分で確認できるので、不安なく製品を作ることができました。
- ・できることが増えて、新しい活動や製品作りに挑戦したくなりました。
- ・販売会でのお客様からの感謝や応援、アンケートから、自分達の活動に楽しさや嬉しさを感じました...など



6【考察】

～授業づくりの工夫と他者評価の価値～

学習の定着や意欲向上のためには、個々に応じた多様な手立てや単元の繋がり、その意図やねらいが明確であることが重要である。また、自己評価や第三者（仲間、教師、保護者、地域など）評価は、「価値や意義」を深め、意欲を高めるためにも重要であると考えられた。



7【結論】

～変化の激しいこれからの社会に適応する「生きる力」の育成のために～

本実践では、個々の生徒に適した視覚支援の充実や肯定的な評価を積極的に行ったことで、生徒一人ひとりが意欲的・協働的に作業学習に取り組むことができた。さらに、このような授業では「価値や意義」の深まりも感じられ、期待通りの成果を得ることができた。本実践で得られた成果を生かしながら、学部目標である「自身の個性を生かし仲間とともに健康で充実した学校生活を送りながら、卒業後、自分らしく自立的に生活する力を育む」ために、より良い授業づくりに努めていく。

